

平庭高原 保養地に

本県の北上山地(北上高地)が建設候補地となっている研究施設・国際リニアコライダー(I-LC)の誘致実現に向けた機運が久慈市で高まってきた。県北沿岸地域の波及効果を期待したもので、市などは誘致活動に積極的に参画するため講演会を開き、支援の在り方を模索。北欧やカナダに似た景観を有したシラカバ群生地帯の平庭高原を売り込み、海外から移り住む研究者やその家族の保養地として名乗りを上げることが目指す。

日本一の「白樺美林」



久慈で講演会

が高いと指摘。平庭高原について「リフレッシュできる環境をつくり、働き掛ければ保養地となる可能性は十分にある」と助言した。

市が同市山形町の平庭山荘で5月31日に開いた講演会で、県科学I-LC推進室の佐々木淳室長は、研究者は休暇期間にアウトドアや趣味を楽しむ自然への関心

講演会を共催した平庭高原「森の恵み・白樺の一滴」活用推進協議会(下館満吉会長)によると、平庭高原は31万本以上のシラカバが群生。同協議会が20

研究者へPR目指す



31万本以上のシラカバが群生する平庭高原。「世界の研究者の保養地に」との期待が高まってきた

15年に「日本一の白樺美林」を宣言した自然の景観を誇る。

久慈地域にとつてI-LCはこれまで「県南の話」と縁遠いイメージもあった。下館会長は「県北でも波及し、効果があるようにしなければならぬ。日本に誇れる平庭高原が、研究者やその家族にとつて休暇の場所になり得るならば、世界の人たちにPRし知ってほしい」と期待を高める。